科目名	看護学概論	担当教員　渡邉美佐子			
開講年次	1年　前期	単位数	1	時間数	30
テキスト	看護学概論　医学書院				
参考文献 関連科目	ナイチンゲール看護論入門:金井一薫著　中範囲理論 教育学　機能看護論　地域・在宅看護論　関係法規　　等				
学習のねらい	1.　看護の定義・対象・方法、社会が求める看護について多角的に思考する必要を学ぶ。また、看護職者としての展望を持ち、学習する目的を明確にできることが狙いである。				
目標	1.　概論を学ぶ意義を理解し、看護職者としての展望を持ち、学習する目的を明確にできる。 2.　社会が求める看護を提供する必要性を理解し、看護専門職者として看護の質保証が求められていることを理解する。 3.　看護実践を検証する上で、手立てとなる看護理論を学ぶ意義を理解する。また、本学におけるナイチンゲール看護論を基盤とした持てる力を支援する看護を学ぶ意義を理解する。 4.　看護技術は、看護の専門知識に基づいて、受け手の安全・安楽・自立を目指した目的意識的な直接行為であり、実施者の看護観と技術のレベルが反映される看護実践である。その看護実践については、個人として責任を持つと同時に多職種との連携協働により、コミュニケーション能力(ICT＊活用含む)が求められていることを理解する。 ＊　ICT:information and communication technology				

回数	学習項目	学習内容	方法
1 2 3	1.　看護の歴史 看護の定義 看護の対象 看護の方法	1)　看護について、様々に定義されているが、対象は人間であり、対象の理解と人間の健康を支援することを理解する。 2)　時代とともに社会が求める看護の変化を理解し、保健医療福祉のチームとそのメンバーとして多職種連携・協働とコミュニケーションが求められていることを理解する。 3)　そのコミュニケーションツールとして ICT の活用が推進されていることを理解する。 4)　健康の定義は、時代とともに変遷していることを理解する。 5)　方法としての看護技術は、看護の専門知識に基づいて受け手の安全・安楽・自立を目指した目的意識的な直接行為である。実施者の看護観と技術のレベルが反映されるものである。その看護技術の意味を理解する。	講義 演習
4 5	2.　もてる力を支援する看護と学習支援	1)　対象の健康教育を受ける権利があることを理解し、看護における学習支援は対象のもてる力を支援する看護について理解する。	講義・演習 (事例学習)
6	3.　地域・生活・家族	1)　看護の提供の場は、病院施設のみでなく人間の生活の場にある。多様な生活の場である地域での看護求められていることを理解する。	演習

		2) 生活者である対象とその社会の最小単位となる家族の多様性について学ぶ。	講義
7 ～ 10	4. 看護実践と質保証と看護理論	1) 看護理論を学ぶ意義。 看護実践における事象・現象を帰納的論証したものが看護理論である。現象をどのように検証・意味付け・根拠づけられているかを理解し、看護の質保証の根拠でもあることを理解する。 ① ナイチンゲール看護論 ② ロイの適応論 ③ ヘンダーソンのニード論 ④ セルフケア理論 ⑤ 人間関係論 ⑥ 危機理論 ⑦ マズロー欲求階段説 ⑧ ストレスとコーピング ⑨ タクティール ⑩ ムーアの分類 等 その活用については、文献の論証においてどのように理論が活用されているかを学習する。	講義・演習
11～ 14	5. 看護の法的根拠 6. 学習の展望	1) 看護と関連する法律を概観し、看護職の法的根拠・相対的欠格事由等について理解する。 2) 看護専門職者の基礎看護教育課程を学ぶ意義を学び、目指す看護(師像)について、自身の学習姿勢を考える。また、その目指す看護(師像)のために今どのような学習姿勢で臨むかを表明する。	
15	7. 学科評価・まとめ	単位認定試験	
評価方法		学科試験 出席状況 授業態度	
評価区分		学科試験 100%	

授業科目名	機能看護論Ⅱ （清潔・衣生活援助技術）	担当教員 河野順子			
開講年次	1年	単位数	1	時間数	30
テキスト	基礎看護技術Ⅱ　基礎看護学3　　医学書院				
参考文献 関連科目	看護が見える①基礎看護技術　　MEDIC MEDIA、 看護援助動画 看護につなげる形態機能学　　メヂカルフレンド社 解剖生理学　人体の構造と機能1　　医学書院				
学習のねらい	人が生命をはぐくみ、維持するためには生活行動が不可欠であり、「衣・食・住」の営みが基本となる。からだの清潔を保ち、身だしなみを整えることは人間の基本的ニーズであり、それらの維持が困難になった場合、対象に適した方法や組み合わせを工夫して援助を行う技術を習得する。また、対象の清潔に対する考え方や習慣は多様であるため、個別性をふまえ安全で安楽な援助技術、対象に配慮した技術を習得する。 外界の刺激から身を守る衣服の役割と同様に、皮膚・粘膜自体の身体内部を守る働きを理解し、対象の日常生活に近い方法で清潔行為をし、その人らしい装いができるよう援助する。				
目標	1. 皮膚・粘膜の構造を理解し、清潔援助の効果と全身への影響を理解する 2. 対象の生活を整えるための身体の清潔および衣生活の援助技術を習得する 3. 対象の個別性を踏まえ、安全で安楽な清潔援助を計画・実施・評価できる 4. 対象の羞恥心に配慮し、反応を観察しながら援助が実施できる 5. 演習を通し、対象の気持ちを推察できる ①対象が気持ち良いと言える援助の実施				

回数	学習項目	学習内容	方法
1 2 3	1. 清潔援助の基礎知識	1) 清潔の意義 (1) 心地よいとは何かを考える (2) 清潔援助の身体への効果 (3) 患者の状態をアセスメントし援助方法を選択 (4) 湯の温度 (5) 所要時間 (6) 体位 2) 原理原則・根拠に基づいた、対象が「心地よい」と感じる援助方法を考える (1) 入浴・シャワー浴 (2) 洗髪・整容 (3) 手浴・足浴・爪のケア (4) 全身清拭・衣服 (5) 陰部洗浄・おむつ交換（当て方） 3) グループワークでの学びを発表、共有し実践につなげる	講義演習 グループワーク

4 5 6 7 8 9 10 11	2. 清潔援助の実際 事例患者への看護実践	1) グループワークでの学びを元に援助の実際を学ぶ (1) 洗髪 ・洗髪車　・ケリーパッドを使用 (2) 手浴・足浴・爪切り (3) 全身清拭・寝衣交換 ・学生同士で患者役・看護師役をする (4) 陰部洗浄・おむつ交換 ・陰部モデルを使用し、男性・女性両方を実施する ・学生同士で患者役・看護師役をする	講義演習 グループワーク
12 13 14	技術評価	単位認定試験	
15	学科評価	単位認定試験	

評価方法	学科試験　技術試験　出席態度　課題提出にて総合的に評価する
評価区分	学科試験　50%　技術試験：50%

授業科目名	機能看護論Ⅳ（フィジカルアセスメント））	担当教員 北山　留美子			
開講年次	1年	単位数	1	時間数	30
テキスト	基礎看護技術Ⅰ　基礎看護学2　　医学書院				
関連科目 参考図書	看護がみえる③　フィジカルアセスメント　　MEDIC　MEDIA フィジカルアセスメントガイドブック　第2版　　医学書院				
学習のねらい	フィジカルアセスメントは「Head　to　Toe（頭から爪先まで）」を系統的にみることで、患者の状態を具体的に把握することができる身体診査技術である。しかし、フィジカルアセスメントはヘルスアセスメントの中に含まれており、身体的なデータを収集・査定することのみでなく、人間の全体像をとらえるために心理的・社会的アセスメントを加えることで対象者を全人的・多角的にとらえられるようになる。これが看護の視点から見たアセスメントと言える。 フィジカルアセスメント力を育てるためには、フィジカルイグザミネーションの手順や方法だけでなく、思考力や知識が備わっていなければならない。そのため、事例等を用いながら基礎的知識や技術、アセスメント能力を習得し、報告の仕方や報告を学ぶことができる。その際、報告をどのように行えばいいのか、系統的に報告することの大切さを学ぶことができる。				
目標	1. ヘルスアセスメントの意義・目的を知り、看護におけるヘルスアセスメントの重要性を理解する 2. ヘルスアセスメントとフィジカルアセスメントの関連を理解し、フィジカルイグザミネーションの手順や方法だけでなく、思考や知識を学ぶ。 3. 系統別フィジカルアセスメントの基礎的知識と技術を学ぶ。 4. フィジカルイグザミネーションやバイタルサイン測定したことをアセスメントし、報告の方法を学ぶ。				

回数	学習項目	学習内容	方法
1	1. ヘルスアセスメントとは	1)　ヘルスアセスメントが持つ意味 2)　ヘルスアセスメントにおける観察 3)　ヘルスアセスメントにおける重要な視点	講義
	2. 健康歴とセルフケア能力のアセスメント	1)　問診（面接）の技術 2)　健康歴聴取の目的 3)　健康歴聴取の実際 4)　セルフケア能力のアセスメント 5)　情報の整理	講義
	3. 心理・社会状態のアセスメント	1)　心理的側面のアセスメント (1) 意識状態のアセスメント (2) ストレスとその対処法に関するアセスメント (3) 自己についての知覚に関するアセスメント 2)　社会的側面のアセスメント	講義
2 3	1. 全体の概観	1) フィジカルアセスメントに必要な技術 (1) 視診　(2) 触診　(3) 聴診　(4) 打診 2)　全身状態・全体印象の把握	講義 演習

		3)　バイタルサインの観察とアセスメント (1) 体温　(2) 脈拍　(3) 呼吸　(4) 血圧 (5) 意識 4)　計測 (1) 身長　(2) 体重　(3) 皮下脂肪厚 (4) 腹囲	
4	1. 系統別フィジカルアセスメント	1)　呼吸器系のフィジカルアセスメント (1) 呼吸器系のフィジカルアセスメントの目的 (2) 呼吸器系の基礎知識 (3) 呼吸器系のフィジカルアセスメントの実際	講義
5		2)　循環器系のフィジカルアセスメント (1) 循環器系のフィジカルアセスメントの目的 (2) 循環器系の基礎知識 (3) 循環器系のフィジカルアセスメントの実際	講義
6		1)　事例を用いて患者の状態を把握しアセスメントを行い、看護を考えることができる。 2)　実践したことをもとに報告することができる。	演習
7		1) 乳房・腋窩のフィジカルアセスメント (1) 乳房・腋窩のフィジカルアセスメントの目的 (2) 乳房・腋窩の基礎知識 (3) 乳房・腋窩のフィジカルアセスメントの実際 2)　腹部のフィジカルアセスメント (1) 腹部のフィジカルアセスメントの目的 (2) 腹部の基礎知識 (3) 腹部のフィジカルアセスメントの実際	講義
8		1）事例を用いて患者の状態を把握しアセスメントを行い、看護を考える 2) 実践したことをもとに報告することができる。	演習
9		1)　筋・骨格系のフィジカルアセスメント (1) 筋・骨格系のフィジカルアセスメントの目的 (2) 筋・骨格系の基礎知識 (3) 筋・骨格系のフィジカルアセスメントの実際 2)　神経系のフィジカルアセスメント (1) 神経系のフィジカルアセスメントの目的 (2) 神経系の基礎知識 (3) 神経系のフィジカルアセスメントの実際	
10		1)　事例を用いて患者の状態を把握しアセスメントを行い、看護を考える 2)　実践したことをもとに報告することができる。	演習

11		1)　頭頸部と感覚器（眼・耳・鼻・口）のフィジカルアセスメント (1) 神経系のフィジカルアセスメントの目的 (2) 神経系の基礎知識 (3) 神経系のフィジカルアセスメントの実際 2)　外皮系（皮膚・爪）のフィジカルアセスメント (1) 外皮系のフィジカルアセスメントの目的 (2) 外皮系の基礎知識 (3) 外皮系のフィジカルアセスメントの実際	
12		1) 事例を用いて患者の状態を把握しアセスメントを行い、看護を考える 2) 実践したことをもとに報告することができる。	演習
13 14	技術評価	1) 技術の習得の確認を行い、自己の課題を明確にする。(体温・脈拍・呼吸・血圧・呼吸音・腹部の聴診・意識レベル) 2) 自分で行ったフィジカルイグザミネーションとフィジカルアセスメントを報告することができる。	
15	学科評価 まとめ	単位認定試験	

評価方法	学科試験　技術試験　出席状況　授業態度　課題提出にて総合的に評価する
評価区分	学科試験 50%　技術試験 50%

授業科目名	機能看護学Ⅴ （診療の補助技術①　与薬技術）	担当教員 近藤　宏美			
開講年次	1年前期	単位数	1	時間数	20
テキスト	基礎看護学　　医学書院				
参考文献					
関連科目	薬理学 薬物療法と看護				
目標	1．薬物の基礎知識を想起し、薬物療法と看護の関連を理解できる。 2．与薬のための法的根拠を理解できる。 3．発達段階に応じた与薬法についての基本的知識、技術、態度を習得できる。 4．多様な場で自己管理ができる支援方法を理解できる。				

回数	学習項目	学習内容	方法
1 2	1．医薬品の法的規制 （保健師助産師看護師法　37条　） 2．薬物の投与経路 3．与薬のために援助技術	紙上事例を用いた学習 1）与薬の指示から実施まで （2人以上で確認） 2）正しい薬物投与　与薬法 （計算方法） 3）与薬における安全管理 4）感染予防 （医療廃棄物の取り扱い　保管場所） 5）薬物投与における安全管理 6）事故発生時の対応;医療安全の確保に向けた視点 7）リスクマネジメント:医療安全の確保に向けた取り組み	講義演習
3 4 5 6 7 8 9	2．与薬方法 発達段階に応じた与薬方法	紙上事例を用いた学習 1）経口与薬方法：内服、口腔内投与 2）経皮・外用的与薬方法：塗布、塗擦貼用法 3）点鼻、点眼　点耳 4）坐薬挿入法:直腸内 5）注射法:皮内注射法　皮下注射法 筋肉内注射　点滴静脈内注射 6）高カロリー輸液法と中心静脈栄養の管理 7）輸血法と輸血の管理 8）輸液ポンプ　シリンジポンプの操作	講義演習
10	学科評価 まとめ	単位認定試験	

評価方法	授業態度　出席状況　学科試験
評価区分	学科試験　100%

授業科目名	看護の統合と実践Ⅰ （看護研究①）	担当教員	担当教員：元吉　広恵		
開講年次	2年次　前期	単位数	1	時間数	15
テキスト					
参考文献 関連科目	よくわかる看護研究論文のクリティーク第2版　日本看護協会出版 https://www.nurse.or.jp/nursing/international/icn/document/index.html 看護職の倫理綱領・看護研究のための倫理指針（日本看護協会） 看護学概論　医学書院				
ねらい	新たな知見と技術を発見する手がかりの1つとなる看護研究の基礎を学び、他者の研究論文を通してクリティカルな思考を身につける。 また、専門職者として看護の質の向上をめざすため、事例研究を通して論文の書き方、発表の方法を学ぶ。				
目標	1.看護研究の意義と必要性について理解する 2.研究のプロセスを理解する 3.実践した看護を事例学習レポートにまとめ発表できる。				

回数	学習内容	学習項目	方法
1 2	1. 看護研究の意義	1) 看護研究とは 2) 看護専門職と看護研究 3) 看護研究と倫理的配慮 ・研究と基本的人権 ・倫理上の原則 ・研究計画審査機構 ・研究テーマの発見の仕方	講義・演習
3 4 5	2. 研究計画と文献検索 3. 研究論文のまとめ方と発表の方法	1) 文献検索の方法 2) 文献クリティークの実際 3) 研究計画書の立て方 研究計画書作成の目的と概要 1)論文の構成とまとめ方 2)研究計画書の書き方の実際 3)論文をまとめる上での注意事項 4)発表原稿と発表資料のまとめ方	文献検索にて原著論文を選択し、クリティークレポートを提出する
6 7	4.看護研究の実際	1)千葉県看護研究学会に参加	
8	学科試験	単位認定試験	
評価方法		授業の出席時間および授業態度、授業中に提示した課題・事例学習	
評価区分		学習項目：1～3　70% 学習項目：4　30%	

授業科目名	地域・在宅看護論　Ⅳ（地域ケアシステム）	担当教員：中野　睦　　（学習項目：1～4）			
開講年次	2年	単位数	1	時間数	15
テキスト	地域・在宅看護論の基盤１　地域・在宅看護の実践２　医学書院				
参考文献 関連科目	地域・在宅看護論　在宅看護技術　メヂカルフレンド社 地域療養を支えるケア・在宅療養を支える技術　ナーシンググラフィカ 地域・在宅看護論　医歯葉出版株式会社				
ねらい	地域・在宅で暮らしている人々の健康を守るための疾病予防や健康増進の取組の実際を学ぶ。事業の法的根拠や目的、役割、看護師の役割を理解する。				
目的	1. 医療・福祉・介護関係者との連携・医療・福祉・介護関係者以外の個人・団体・機関との連携やさまざまな視点を理解する 2. 地域包括ケアシステムのプロセスから評価・改善と健康づくりと疾病予防の取り組みについて理解できる				

回数	学習項目	学習内容	方法
1 2 3 4	1. 地域・在宅看護のシステムづくり（行政）	1) 地域包括ケアシステム 2) 健康づくりと疾病予防のシステム 3) 地域包括ケアシステムと多職種連携 4) 在宅看護におけるケースマネジメント	講義 グループワーク
	2. 地域共生社会における多職種連携・多職種チームでの協働（さまざまな業種）	1) 看護師が連携・協働において果たす役割 2) 医療・福祉・介護関係者との連携 3) 医療・福祉・介護関係者以外との連携・協働 4) 地域共生社会を実現するために	
5 6 7	3. 地域・在宅看護マネジメント	1) 地域・在宅看護マネジメント 2) 多様な場における地域・在宅看護マネジメント 3) 多職種による健康危機・災害マネジメント	講義 グループワーク
	4. 地域・在宅看護活動の創造と展開例	1) 地域・在宅看護活動の創造 2)「暮らしの保健室」の例	
	学科評価	単位認定試験	

評価方法	学科試験　出席状況　授業態度　課題提出にて総合的に評価する
評価区分	学習項目：1～4　100%

授業科目名	看護方法論Ⅱ	担当教員：　池田　香理　　（学習項目：1～6）			
開講年次	1年	単位数	1	時間数	15
テキスト	基礎看護学②基礎看護技術Ⅰ　医学書院				
参考文献 関連科目	ゴードン博士の看護診断アセスメント指針　照林社 NANDA-I 看護診断　医学書院 看護がみえる④看護過程の展開　メディックメディカ				
ねらい	ゴードンのアセスメント枠組みを使用し、看護過程の展開の基礎を学ぶ。紙上事例を使って、情報から根拠のある看護診断を導き、問題解決をはかるための目標を考える。そこから、具体的援助を考えられるようにする。また、促進準備状態の診断についてももてる力を支援できる看護として積極的に考えられるようにする。				
目標	1. 看護過程を構成する要素とそのプロセスを理解する 2. 看護方法論として看護過程を用いることの意義を理解する 3. 紙上事例をもとに、問題解決過程やクリティカルシンキング、リフレクション、倫理的判断といった看護過程の基盤となる考え方について理解する 4. 看護過程の各段階についてその基本的な考え方と実際を理解する 5. クリティカルパスについて基本的な考え方を理解する				

回数	学習項目	学習内容	方法
1	1. 看護実践における看護過程とは	1)看護過程の意義について理解する 2)看護過程の構成要素を理解する 3)クリティカルシンキングについて理解する	講義
2	2. 看護過程における看護診断と看護成果および看護介入について	1)「NANDA-I 看護診断の定義と分類」の見方と活用方法について	講義
3 4 5 6 7	3. アセスメントの枠組みとしてゴードンの機能的健康パターンを用いる意味	1) ゴードンの機能的健康パターンについての 11 の枠組みの意味 2) 情報の整理の仕方 3) アセスメントの考え方	講義
	4. 全体像の捉え方と関連図作成の意味	1) 関連図の中に対象者の背景、発達段階、病態、治療、看護上の問題をあげ全体像を可視化する方法	講義 個人ワーク
	5. 看護診断・看護計画	1) 看護の優先順位の考え方 2) 看護計画の立案 3) 対象者の強みを活かした計画を考える	講義 個人ワーク
	6. 看護実際・評価	1) 看護実践の後のリフレクションから評価・修正	講義 個人ワーク
	学科評価	単位認定試験	

評価方法	学科試験　出席状況　授業態度　課題提出にて総合的に評価する
評価区分	学科項目：1～6　100%